

シロイチモジヨトウによる被害に注意！

岡山県農業研究所（赤磐市）に設置しているフェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの7月4半旬から8月3半旬の誘殺数は124頭と平年（26.5頭）より多くなっています。

広島地方気象台が8月21日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は並〜少ないとされており、発生を助長する条件となっています。また、秋期の気温が高く推移すると10月以降も発生が多くなることが懸念されます。

本虫の加害作物を栽培しているほ場では注意深く観察し、発生を確認した場合は速やかに防除を行ってください。

〈防除対策及び防除上の参考事項〉

- 1 早期発見に努め、初期防除を心がける。
- 2 広食性で、ネギやタマネギなどの野菜類、花き類、ダイズなどに被害を及ぼす。
- 3 中・老齢幼虫には薬剤の効果が低くなるので、葉の中に入り込む前の若齢幼虫期に薬剤防除を行う。
- 4 ほ場を見回り、卵塊や幼虫が付着した葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 成虫の産卵防止には、防虫ネット（目合4mm以下）の設置、交信かく乱剤を用いる。
- 6 作物によって登録のある薬剤が異なるため、使用に当たってはラベルをよく読み、登録の有無や収穫前日数、使用回数など使用基準を遵守する。また、薬剤抵抗性の発達のおそれがあるため、同一系統薬剤の連用を避ける。



写真1 中齢幼虫（体長約2 cm）



写真2 幼虫による食害（ネギ）

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

